■ 第24年度活動報告書（2022年4月1日～2023年3月31日）　■2023年10月発行

# 第24年度 活動報告書

こどもと“共に育ちあう”

特定非営利活動法人

## 山科醍醐こどものひろば

# index


インタビュー …… 1
山科醍醐こどものひろばとは …… 3

24年度（2022年度）まとめ …… 5
決算報告 …… 6
収益 …… 7
費用 …… 8
25年度（2023年度）計画 …… 9
予算 …… 10

げんきスポット0-3 …… 11
町たんけん …… 12
楽習サポートのびのび …… 13
食材支援 …… 14

コッペパンより …… 15

支援のお願い …… 23
アクセス・お問い合わせ …… 24


もくじ

# Interview
# インタビュー

2022年度は、村井琢哉が理事長に就任して10年目になる年であり、理事長として活動する最後の年でした。そして2023年7月31日の任期満了をもって理事長を退任しました。後任には事務局長であった品田真孝が理事会による協議の結果、理事長に選出され、就任いたしました。

そこで、村井前理事長、品田新理事長に、これまでの活動と今後について、そして、山科醍醐こどものひろばへの思いをインタビューしました。

村井琢哉（むらいたくや）
2013年から2023年7月末までの10年間理事長を務める。子ども時代に前身団体である「山科醍醐親と子の劇場」の活動に参加してから早30数年。

品田真孝（しなだまさゆき）
2023年8月から理事長に就任。こどものひろば歴17年目。学生時代にキャンプなどのボランティアに参加していた。事務局長を兼任している。

## ● 2022年度をふりかえってみて、どうですか？

村井:やはりコロナの影響も残っていたことと、私個人として入院などもしたので、新しいことに取り組むというよりは、次の運営体制に向けた準備の一年になったと思います。コロナ禍であるため、子どもたちとの活動の中心は、げんきスポット0－3や楽習サポートのびのびなどで取り組む、行政からの委託事業となりましたが、制限があるなかでも多くの子どもが活動に参加してくれてコロナ禍でも活動を続けてよかったなと思います。あとは理事長の交代を控えて、新体制をどうしていくかは大きなテーマでしたが、なんとか引き継げてよかったと思っています。

品田:事務局としての2022年度は引き続き経費の削減に取り組みました。収入減が続き、赤字決算となっているため寄付募集をするとともに、経費の見直しをして、できるだけ削減をしてきました。しかし、昨年度以上に収入減となり、今年度も赤字決算となってしまいました。また理事長の交代に関する調整、手続きの準備などをしていました。
その他、体験活動やこどもフェスタの再開についても調整、計画をして、年度明け（2023年度）にはこどもフェスタを実施することができました。ご協力をいただいた会員、関係者の皆様、ありがとうございました。

## ● 理事長を務めた、この10年間はどうでしたか？

村井:あっという間でしたね。活動自体は会員や職員のみなさん中心に多くのボランティアの方々がやりたいことを子どもたちと形にしてくださっていたので、地域の連携や講演、出版などでこどものひろばの想いや活動を伝えることに注力させていただきました。あとはよく拠点の引っ越しをしたなという印象ですね。心残りは最後の3年がコロナでこどものひろば全体での交流などが減ったことですね。

## ● 理事長としてこれからどうしていきたいですか？

品田:就任のご挨拶でも書かせていただきましたが、これまでこどものひろばを創ってきた方の思いを受け継ぎ、そこに今度は私自身の思いも詰め込み、それを次の世代に繋いでいくことを一つの目標にやっていきたいと思います。
単年度の個人目標としては、コロナ禍で減少した会員、関係者との交流企画（フェスタ、クリスマス会など）を実施していきたいです。

## ● 二人にとって山科醍醐こどものひろばってどんなところ？

村井:事務局長になる少し前から15年以上毎日のように事務所に行って作業したり交流を重ねた場ですので、ただただ私の「日常」って感じですね。特別なことをしなくても、新しいチャレンジをしても、遊んでも休んでも何をしにきてもよいよ、過ごしたいように過ごしてよいと感じさせてくれる場だと思います。行けばいろんな人に出会え、しゃべっているだけで1日が終わることも多い話題のつきない愉快な場でもあるなと思います。

品田:私にとってこどものひろばって、学生当時はいつ行ってもいいし、行かなくてもいい居場所でした。行けば誰かいて、ダラダラ過ごしていてもいいし、お手伝いしたりなど、自分に居場所をくれたのがこどものひろばだと思います。
職員になってからのこどものひろばは、想いを実現する場所であるように思います。やりたいことを自分なりにカタチにしていくことを応援してくれる場所であったと思います。今度は自分が誰かの思いを実現するための応援が出来ればいいですね。

## ● みなさんへのメッセージ

村井:理事長は退任しましたが、これからも新体制を応援しながら活動を継続していきたいと思っています。なによりコロナで止まった活動も多いので、またはじめから活動をしたい人の「やりたい」がカタチにできるように一緒に活動していけたらと思っています。私も何かはじめようと思いますので、これからもよろしくお願いします。

品田:私にとってこどものひろばが居場所の一つになったように、誰かにとってもこどものひろばが居場所の一つになったらいいと思います。そんな団体を子ども、会員、ボランティア、地域の方など、みなさんと一緒に作っていきたいと思いますので、これからも山科醍醐こどものひろばを応援いただければと思います。

# Mission ミッション

## 山科醍醐こどものひろばとは？

地域に住むすべての子どもたちが心豊かに育つことをめざし、地域の社会環境・文化環境がより良くなる事を大きな目的に活動しています。

子どもと大人が一体となってものごとに真剣に向き合うことで、“共に育ちあいたい”との願いを大切にして日々の活動をしています。

あらゆる人にとって自分らしく生きることのできる、人との交わりを大切にします。

● 山科醍醐こどものひろばの事業（活動）は主に7つ、常に子どもたちが真ん中にいます。

例えば・・・

## 設立

1999年12月設立。2000年3月法人格取得。1980年に当時の「おやこ劇場・こども劇場」運動の中、京都親と子の劇場から独立する形で「山科醍醐親と子の劇場」が発足。地域に根差し、親子で文化に触れる機会を創出することに取り組む。その後、会員限定の取り組みだけでなく、より多くの地域の子どもたちとともに活動を創るべく、山科醍醐こどものひろばとして再スタートして、現在43年目をむかえる。

## ●理事・監事紹介

氏名（ひろばネーム）

理事長
村井琢哉（たくぼん）
2023年度7月まで

理事長
品田真孝（しな）
2023年度8月から

副理事長
林田貴志（ふぁーびー）

常任理事
横関つかさ（よっこん）

理事
大場孝弘（ばけさん）

理事
小辻寿規（こっつん）

理事
村井彰信（むーちゃん）

理事
中上桃子（ぴーちゃん）
2023年度8月から

理事
栗田佳典（くりちゃん）

理事
日高秀人（かず）

理事
梅原美野（うめちゃん）

理事
永井幸子（ながいちゃん）
2023年度7月まで

監事
米亨和（よねさん）

監事
中尾保美（なかおちゃん）

## ● 外部団体とも連携しています（一部紹介）

**≪公共団体≫**
- 行政・外郭団体
- 保育園・幼稚園・児童館
- 小学校・中学校・高校・大学 など

**≪ネットワーク団体≫**
- 山科区、伏見東 京都はぐくみネットワーク
- 山科区地域福祉推進委員会
- 山科区子育て支援連絡会
- 山科子育て応援団
- 醍醐子育て支援連絡会
- 山科区ボランティアサークル連絡会
- 京都子育てネットワーク
- 小栗栖小学校、小栗栖宮山小学校、勧修中学校学校運営協議会
- 要保護児童対策地域協議会(山科区、醍醐）など

**≪連携団体≫**
- 京都子どもセンター
- おとくにパオ
- 子どもNPO子ども劇場全国センター
- 子育てひろば全国連絡協議会
- きょうとNPOセンター
- 京都地域創造基金
- 京都市ユースサービス協会
- おてらおやつクラブ
- 社会福祉協議会 など

# 24th summary ２４年度まとめ

## コロナ明けの活動に向けて課題の見えた一年

### 運営体制･事業実施体制整備の遅れ

コロナが少し落ち着き、対策をすれば従来の事業再開もできたであろうこの1年間でしたが、年度当初から理事長の入院やコロナの影響によるスタッフの定期的離脱もあり、当初予定していたことが十分にできない一年となりました。特に活動の基盤ともなる会員や関係者の方々との交流やその機会となるこどもフェスタの実施は検討をはじめることはできましたが、実際に実施は次年度にせざるを得ない状況になりました。

またそのような一緒に活動を作ってきた方々との再会なくして、活動の再開は難しく、財政面の基盤整備についても十分に取り組むことができませんでした。結果大きな赤字ともなっており、この面は次年度早期に対応していかなければいけない課題となっています。そしてコロナ禍でも動いていた活動については、相談も利用者も増えることで体制に不十分な部分がでてしまい、スタッフの負担が大きくなっていた面もあります。活動現場は多くのボランティアのみなさんにも支えていただきましたが、事務局として実施できていない活動との再開に向けた動きを早期にできませんでした。一方で委託事業を中心としたげんきスポット0-3や楽習サポートのびのびといった日常的に実施される事業については、感染対策をしながら実施することができました。地域との連携事業については再開に向けた検討もはじまり、あらためて連携体制について議論をすることができました。

### 財政収支の見直し

前年度に拠点を移転したことにより、支出に関しては大幅な改善がみられました。またその新拠点における個別活動や食材支援、連携事業となるフリースペースの活動の実施と従来の拠点より多くの活動を実施することができました。一方で実施基盤の整備ができていないことから課題にあがっていた財政基盤の見直しの議論とそのうえでの実行については取り組むことができず、また昨年度まで同様、講演会などの開催が減少したこともあり、寄付金が大幅に減少し赤字を生み出すこととなりました。コロナが落ち着きすでに新年度に向けた講演依頼などもあることから、次年度は早期に改善に向けた対応チームをつくるなどし見直しを図ることが必要と考えています。

### 日常生活に溶け込む活動

課題が多い一年ではありましたが、コロナの影響を踏まえつつもコロナへの配慮さえあれば活動ができたことから、げんきスポット0-3や楽習サポートのびのびの活動は毎日多くの子どもや家族の参加がありました。コロナによっての制限が緩むにつれ来館者が増えることや、その場でこれまでの参加者の再会が生まれ、あらたな交流がはじまっている点ではあらためて日常生活に溶け込む活動となっているのだと感じられます。一方で日常的な活動以外が再開していないことで縁が切れているという声もあがっており、動いている活動を入り口としその次の活動を再開していくことや新規でつくっていくことが求められています。



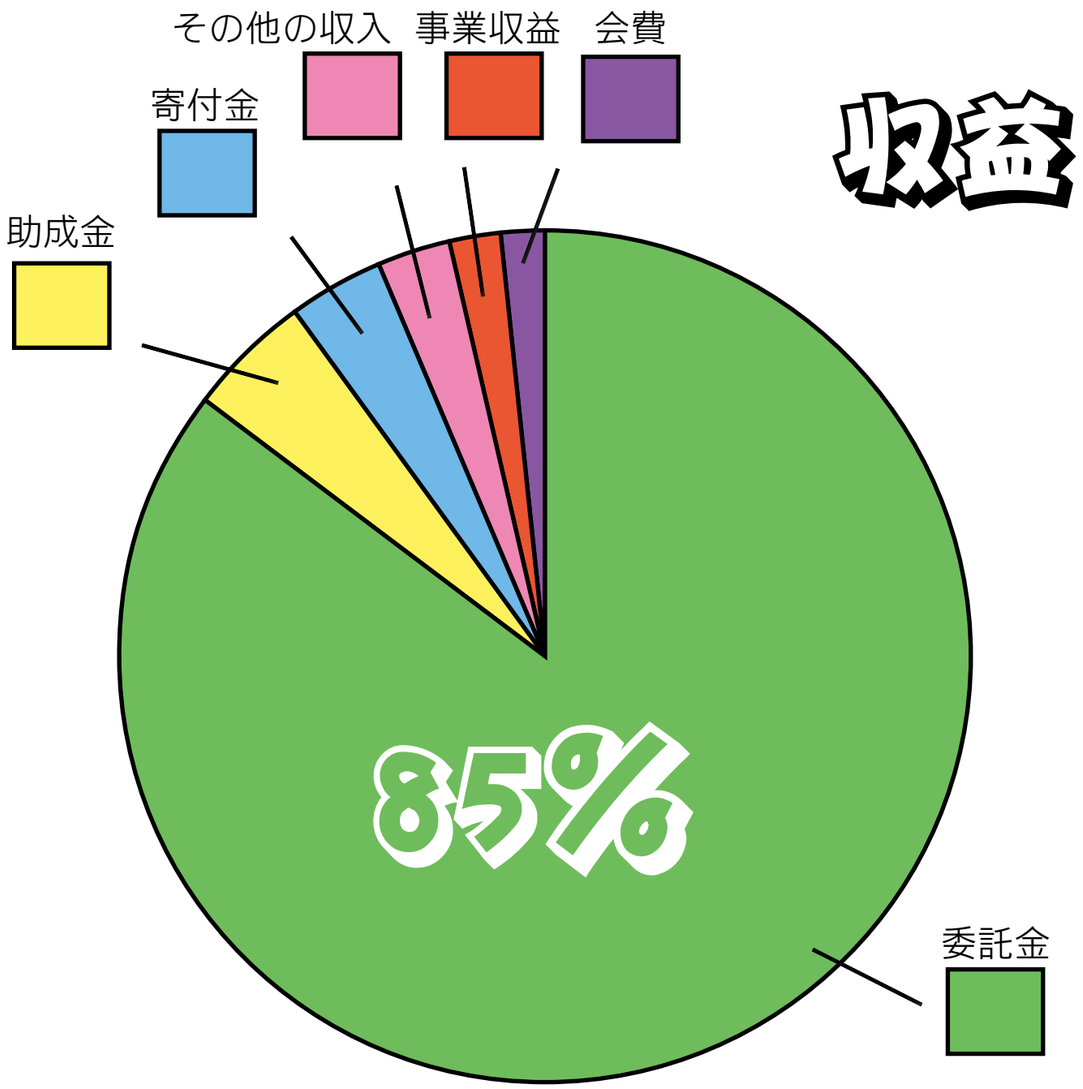
# 決算報告 Financial statement

| 収入の部 | | 金額（単位：円） |
|---|---|---|
| 内訳 | 会費 | 331,000 |
| | 寄付金 | 790,429 |
| | 助成金 | 1,021,429 |
| | 補助金 | 0 |
| | 事業収益 | 428,160 |
| | 委託金 | 18,813,300 |
| | その他の収入 | 634,218 |
| 当期収入合計 | | 22,018,536 |
| 前期繰越金 | | 3,173,717 |

| 支出の部 | |
|---|---|
| 当期支出合計 | 23,432,058 |
| 内人件費 | 13,938,113 |
| 次期繰越金 | 1,760,195 |

**●助成金**

・公益財団法人 京都地域創造基金 事業指定助成事業



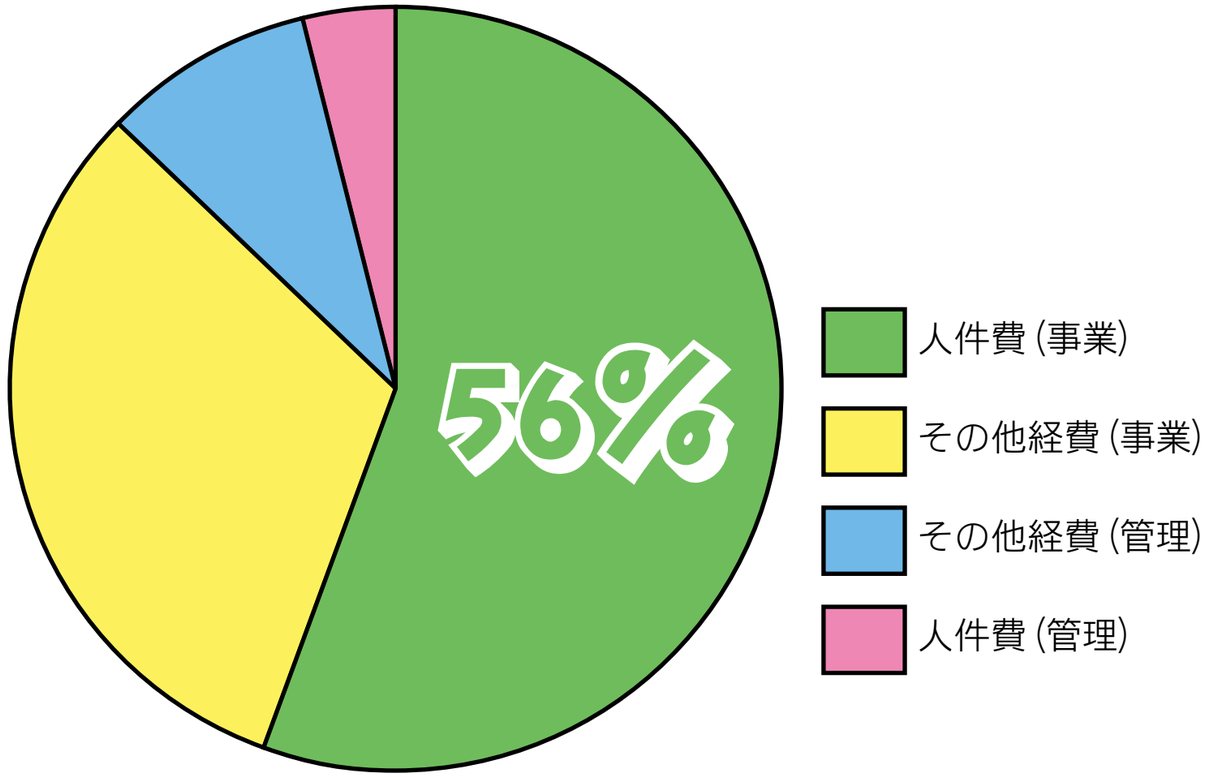

収益

**●委託金**

・きょうとこどもの城づくり事業
・京都市子育て支援いきいきセンター（つどいの広場）事業
・生活保護世帯等生活困窮世帯の子どもに対する学習支援業務

# Revenue

昨年度収益と比較すると、すべての収入項目が減少した。特に大きく落ち込んだものが寄付金である。例年と比較しても、減少傾向にあるが、前年度は事務所の移転があり、多くの方に支援いただけたため、特に大きく減少することとなった。また、全体収益が減少したことにより、委託金の収益割合が73％から85％に増加した。その他、項目としては減少しているが、コロナが落ち着いたことにより、講師派遣（その他収益に含まれる）の収入は増加している。




# Cost

費用

赤字決算が続いているため、経費削減などに取り組んだこともあり、全体的に費用は減少した。しかし、収益が大きく減少したこともあり、今年度も赤字決算となった。各項目を昨年度と比較すると、賃借料、消耗品費などが大きく減少し、水光熱費が昨年よりも高騰していることもあり、増加している。

# 25th Plan 25年度計画

## 新しい活動ビジョンを描き直しとより多くの子どもたちと交流できる一年に

いよいよコロナによる制限も緩和され、こどもフェスタからあらためてコロナで停滞していた子どもとの事業を再開したり、さらに活動に取り組める体制強化をはかっていくことになります。コロナ禍で休止していた活動も事業計画に盛り込み、徐々にではありますが本来の多様な活動があふれるこどものひろばの姿になっていく1年としたいのですが、そのためには、大きく以下5点検討し取り組む必要があります。

### 1. コロナの影響なども踏まえ、これからの活動ビジョンの検討

あらゆる状況が変化したなかで、ただ従来の活動を再開したり、継続するだけでなく、これからどのような組織、活動を目指すのかを議論し直し、それに沿った活動や体制構築を目指します。さらに新体制によって中長期のビジョンについても検討を進めていきます。

### 2. 活動をともにする会員や地域の連携先はじめ、山科醍醐こどものひろばに関わるすべての方々との交流

この3年間で、活動を休止したり直接交流することが難しかったことから、会員をはじめ、多くの方がこどものひろばに関わっているにもかかわらず、そのほとんどがお互いを知らないという状況があります。あらためてこどものひろばという縁でつながっている方々の交流を通じて、これからの活動を考え、ともに挑戦していくことを、まずはこどもフェスタからはじめ、取り組んでいきます。

### 3. 役員改選から新しい運営体制の構築

1期2年の改選期のため、これから充実させていく活動を新しく応援できる役員体制と事務局体制を整えるとともに、各活動をどのようにサポートしていくのかという点での仕組みづくりを行います。また法人運営事務の側面でも新しい制度や手続きなどもあるため、事務局として各事業と連携できるように体制を構築します。

### 4. コロナ禍の以前のようにはできない活動運営をサポートする体制構築

活動を再開するにあたって3年間で関わる方々の状況も変化し、同じように取り組むことが難しい場面も想定されます。そのフォローとして事務局が関われるような体制の充実を図ります。またしばらく活動がなかったことでボランティアをしたくても、受け入れができなかったため、活動につなぎ、フォローを行なっていきます。

### 5. 運営財源の確保

コロナ禍の3年間は、行政からの委託事業が中心であり職員も事業専従でありましたが、今後活動のサポートや法人の動きがでてくるなかで事務局の体制強化が急務となります。そのためにも財源の確保が必要になってきます。コロナ禍であまり行なってこなかった講演会や研修事業など啓発事業にも取り組みながら、講師派遣などの収益事業や寄付募集の面の強化を図るべく、研修事業や寄付募集を専従で行う事業をたて、財源確保に取り組みます。あわせて会員制度についても実態を踏まえた見直しの検討も行っていきます。



# Budget 予算

| 収入の部 | | 金額（単位：円） |
|---|---|---|
| 内訳 | 会費 | 350,000 |
| | 寄付金 | 1,500,000 |
| | 助成金 | 2,200,000 |
| | 補助金 | 0 |
| | 事業収益 | 961,236 |
| | 委託金 | 18,007,300 |
| | その他の収入 | 1,570,050 |
| 当期収入合計 | | 24,588,586 |
| 前期繰越金 | | 1,760,195 |

| 支出の部 | |
|---|---|
| 当期支出合計 | 24,562,080 |
| 内人件費 | 15,978,322 |
| 次期繰越金 | 1,786,701 |

# Genkispot 0-3

【参加の対象】
0～3歳児までの子どもと保護者

【活動の目的】
０～３歳くらいまでの子どもと保護者が自由に遊びに来られる場として、無料開放し、以下の取り組みを中心に子育て支援事業を行う。

1 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
2 子育て等に関する相談、援助の実施
3 地域の子育て関連情報の提供
4 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
5 地域の子育て力を高める取組の実施

「げんきスポット０－３」を飛び出して地域の場での支援事業
1 出張広場開催
2 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
3 地域の子育て力を高める取組の実施

【感想】
つどいの広場として火曜日から土曜日の10時から16時の間に、予約なしで自由に来て自由に帰ることが出来る“来やすさ”と一戸建ての“入りやすさ”で自宅にいるような空間が、保護者の方にとっても気楽に来ていただける要因だと感じています。「インスタで見て来ました」と言ってくださる方も増え、来館者さんがお友達を誘って来てくださったり、「げんきスポットの評判を聞いて、是非来たくて探して来ました」という方も多く嬉しく思っています。
最近では、0歳児の来館が大変増えてきています。保健所での案内や山科区の赤ちゃん訪問案内していただいているのも大きな要因になっていると思います。今後も行政との連携を充実していきながらよりよい環境作りをしたいと思います。
なりたてママの「はじめの一歩」・「育休復帰サポート講座」などを実施し、いろいろな角度から子育てママを応援し、よりよい子育てについてみんなで考えられました。講座で仲良くなったお母さんたちが、げんきスポットを巣立っていかれた後も長く交流されている様子が見られて、子育てのスタートのよいお手伝いが出来てよたったです。コロナ禍の数年、「0-3があって本当に助かりました。安心して親子で遊びに来れる場所があって良かった。」と言ってくださる方も多く、神経を使うことも多い期間でしたがスタッフで協力して頑張ってきて良かったと思いました。
今後も来館者の声を聞きながら、地域に根差した活動や保護者の方にも子育て力・地域力を持っていただけるような0-3独自の取り組みを考えていきたいと思います。

【成果】
地域での認知度も上がり、音羽川学区の回覧板や口コミ、インスタによる情報発信によって、多くの方に来館していただけるようになりました。保健所での案内や山科区の赤ちゃん訪問で紹介してもらいました と来館される方もありました。
週に3回、無料で楽しめるプログラム（「おはよう体操」や「絵本となかよし」など）を設定する日、有料のベビーマッサージやママワークの日などを織り交ぜながら企画を実施し、同年代の子育てをするママ同士が、ゆっくりほっこりできる場となっていました。ママワークでは、フラワーアレンジメントやトールペイントなど育児であわただしい日常からしばし離れてお母さんたちに「癒しの時間」を提供できました。また、ミシン講座では参加者の要望に答えて入園準備にミシンを活用して、個別の希望にも応えた講座を実施しました。０歳児の参加が増え、親子のふれあい・憩いの場になっているのがよかったです。おはよう体操ではみんなで一緒に体操し、企画後のママのおしゃべりタイムを楽しみにされ多くの参加者がありました。土曜日に月１回実施しているパパデーが定着し、平日も土曜日もパパの参加が増えました。パパ同士で来館してくださる方もいて、情報交換されている姿も見られます。
「はじめの一歩」は毎回好評で、参加されたお母さんたちが仲良くなって講座終了後も一緒に来館されたり、げんきスポット以外の場所にも出かけて行かれるなど子育ての輪が広がっている姿が見られました。「育休復帰サポート講座」の連続講座でも参加者が集まり、子育てについてゆっくり考え今後の育児に生かす内容を提供出来ました。
充実事業として現施設だけでなく外部に出向くようになり1歳児後半から活発に動き回る子にも場の提供ができました。

## げんきスポット0-3



【参加の対象】
チーム参加対象は小学生(全学年)
事業対象は区内の全小学生
希望する小学校の出前授業対象児

【活動内容】
1．地域を発見する活動・・・６回
2．文化を知る活動・・・1回
3．報告書の作成（2021・2022年分で1冊）

【活動の目的】
①ひとりひとりの子どもが、町たんけん活動の中で、自分の力で地域の良さをみつける。
②「歩こう！だいすき山科ガイドブック」「山科かるた」「山科かるた双六」「報告書」などを通し、この町が好きだという子どもを一人でも多く増やす。そのために、地域を知る資料を地域の全児童に配布するとともに、小学校に出向き、授業時間を使って、その良さを伝える。
③地域が、ひとりひとりの子どもの生活や学びの支えになるように、まちづくりに寄与する地域団体のネットワークを大事にし、連携を取り合い、よりよい地域を目指す。

# 町たんけん Machitanken

【成果】
今年度は、年間7回の活動を実施した。（2023年5月のこどもフェスタにも参加）
参加者が待ち望むような活動となり、気持ちよく過ごすことができた。
【目的達成について】
今年度は全児童に参加者募集チラシを配布し、今までに出会ったことがない子どもたちとの出会いが多くなった。学校で自由が制限されている中で、心のよりどころのように楽しむ光景が広がった。
今までは、幅広いスタッフ構成で、子どもたちも多様なスタッフとのかかわりを楽しむことを主眼に置いていたが、大人の人数が多すぎたことでの課題もあり、毎回5名の固定のスタッフ体制とした。
参加費は低額に据え置き、参加しやすい活動形態を模索するなど配慮した。財政的には助成金の申請などをしなかったこともあり、赤字となり、積立金を取り崩したり、寄付金を受けたりしての活動となった。一方、出前授業を希望される学校もあり、大事に考えていただいていることも感じた。
次年度は最終年度となるので、小学校との連携を進め、子ども達にとってより良い山科になるように努力したい。

【感想】
コロナ禍で、定員を満たすことは出来なかったが、自主性を重んじた活動となったように思う。
次年度も、コロナの状況で、どこまで実施できるのか不安もあるが、子どもたちの自主的な活動部分を多くしていきたい。

【参加の対象】
主に山科区・伏見区醍醐地域の小学校1年生～中学3年生：
＠ら～にんぐ（学習）、＠らいふ（生活）、＠ひろば（余暇）、＠ほーむ（家庭訪問型）
主に伏見区醍醐地域の小学生：＠だいご（生活・学習・余暇・食材支援）
高校生以上（活動を卒業したメンバー）：＠たいむ

【活動の目的】
発達課題、不登校、子どもの貧困、ネグレクトなど「困り」を抱え、自信が持てない子どもたちの生活・学習・余暇のサポートに取り組む。年齢の近いサポーターがマンツーマンを中心として関わりながら、子ども１人１人に合ったサポートに取り組むことで、子ども自身が自信を持つことや将来に向けての選択肢が広がることを目的としている。
また、法人内の他の事業に参加したり、本法人以外の団体や地域ともネットワークを作り、子どもたちが安心して過ごせる場所を広げることも目指していく。

【活動内容】
＠らいふ→平日の15時～21時に実施
＠ら～にんぐ→平日の週1回120分程度で実施
＠ほーむ→利用者の希望日程（週１回90分程度）で実施
＠ひろば→月に1回程度実施
＠たいむ→のびのびの活動、地域イベント等でのボランティア活動／同窓会
＠だいご→平日15時～19時、宿泊活動も実施
・中学生勉強会（委託事業）→毎週月曜日・火曜日・木曜日実施
・専門家が入ったサポーター向けの「ふりかえり会」の実施
・保護者面談
・ケース会議参加

# 学習サポートのびのび

【成果】
まずは、大きなことなく一年を通して子どもたちと一緒に活動ができたことが成果かと思います。週に1回の活動を行う中で「ひろばが楽しみで、一週間頑張れる」「学校にはなかなかいくことが難しいですがひろばは楽しいから、行くことができています」との声がありました。サポーターも積極的に活動に参加してくれたこともあり、子どもたちも楽しく通うことができていたのではないかと思います。
関係各所（区役所や学校など）からも「子どもたちが支えが増えることで、不安定な環境の子も少し安心して見守ることができる」との声をもらいました。

Nobinobi



【感想】
一年を通して子どもたちと楽しい活動を作ることができ、よかったと思います。今年は４年間関わってきたサポーターも多かったことや、活動としては卒業を迎える子どもたちも多かったので自然と熱が入った活動作りになっていたのでは考えます。課題もありますが、一つ一つこなしていくこと、実直に誠実に活動していき来年度の活動も、いい意味で「いつも通りな当たり前」の活動ができたらいいなと思っています。
欲を言うならば、野外活動や体験活動をしていきたいと思っています。コロナ禍でなかなかできなかったのですが、一回なくしてしまった活動の復活は難しく、新たな形で、子どもたちに体験して欲しい活動を届けていき、一緒に楽しむことができたらと思っています。

# 食材支援 food aid

【活動の概要】
昨年度に引き続き、経済的に困窮している家庭だけでなく、コロナ禍で家計が切迫した家庭なども対象に食材、衛生用品、日用品の支援を継続的に行ないました。活動に来ている子どもへの手渡し、郵送、フードパントリーなどの様々な方法により、多くのご家庭に支援することができました。

【ご支援いただきありがとうございます】
食材、衛生用品、日用品、衣類の支援を実施するにあたり、以下の助成金、寄付金、物品寄付を活用させていただきました。ご支援いただきありがとうございました。
・近畿ろうきん　社会貢献預金「笑顔プラス」
・宗教法人真如苑　子どもの貧困対策のための寄付金
・公益財団法人京都地域創造基金「事業指定寄付」
・認定NPO法人おてらおやつクラブ　お菓子、食材、物品寄付
・こども食堂サポートセンター(運営:一般 社団法人全国食支援活動協力会)
　餃子の王将「お子様弁当」
・京セラ株式会社 お米、お菓子の寄付
・ノートルダム女学院　中学高等学校　衣類の寄付
・その他、個人の方多数

# Activity report

活動
レポ

## 活動 ピックアップ レポート
（2022年3月～2022年5月）

## 4/3 町たんけん～山科本願寺を歩く～

2 月、3 月の町たんけんは延期になり、やっと 4 月 3 日に開催した町たんけん。是非とも見て、行って、心のなかに残してほしい・・・で、山科本願寺跡にいってきました。大人の人でも聞きなれない「山科本願寺」は、蓮如が山科につくったお寺で、最盛期には寺内に 3 万人もの人が住んでいたそうです。そんな「仏国のごとし」といわれたところが、1532 年に焼討にあい、わずか 54 年で幕を閉じた・・・そのため、山科の人達にさせ、忘れられてしまっているのですね。この日は、雨模様で、どこまで行けるのか、でしたが、敷地の北の部分、約 3 割ほどを見て歩きました。

山科西友店北出口付近出発→東御坊→戦争で供出の蓮如像を見る→蓮如廟→中央公園の横にある道から土塁の高さを見る→中央公園角にある「山科本願寺跡」の立て看板で確認をする→新しい公園（国史跡）山科本願寺の「蒸し風呂の跡」「土塁と濠」の断面等を見る→奥田家（代々西宗寺総代で豪農）の雰囲気を見る→奥田家を挟んで両側から、土塁・濠跡を見る→ここから向うの距離も確認(どれだけ、山科本願寺が大きかったか)→西宗寺(蓮如像、桜と集合写真)→山科中央公園の土塁に登り、高さを確認する→山階小学校横から西別院に行き、花まつりの本堂前で、焼香し、甘茶をかけさせてもらう。そのあと、昼食、桜の下で走り回る→げんきスポット　(地図にシールを貼る、スケッチ、紙芝居で山科本願寺跡の復習、記念に木の工作をする)一人一言（一年間の振り返り）→お指図の井戸→西友山科店北出口横にて解散
傘もささずに、何とか過ごすことが出来ました。

（当法人活動ブログより）

## ●コラム集「こどもと共に育つ」

コッペパン180号から「こどもと共に育つ」と題して、こどものひろばで活動し、現在も子どもに関わっておられる方にそれぞれコラムを書いてもらいました。コロナ禍でなかなか思うように活動ができず、会員、ボランティアが出会い、交流できる機会もなくなりました。そのため、コッペパンでのコラムというカタチではありますが、少しでもこどものひろばに関わっている方のことを知ってもらう機会となればと思い、コラムをお願いしました。小学校教諭、幼稚園教諭、社会福祉士、保育士、カウンセラー、介護福祉士という様々な立場の方に、日常の出来事や子どもたちを取り巻く環境などそれぞれの目線でコラムを書いてもらっています。第1回のコラムは右記のQRコードよりアクセスいただき、ご覧ください。

※第1回はどなたでもご覧いただけますが、第2回以降は会員、支援会員の方限定となっております。

コラム集「こどもと共に育つ」全４回（予定）

今年のテーマ「こどもと共に育つ」で、こどものひろばで活動し、現在、子どもに関わっておられる方にそれぞれコラムを書いてもらいました。コロナ禍でなかなか思うように活動ができず、会員、ボランティアが出会い、交流できる機会もなくなりました。そのため、コッペパンでのコラムというカタチではありますが、少しでもこどものひろばに関わっている方のことを知ってもらう機会となればと思い、コラムをお願いしました。小学校教諭、幼稚園教諭、社会福祉士、保育士、カウンセラー、介護福祉士という様々な立場の方に、日常の出来事や子どもたちを取り巻く環境などそれぞれの目線でコラムを書いてもらっています。第1回のコラムは右記のQRコードよりアクセスいただき、ご覧ください。

※第1回はどなたでもご覧いただけますが、第2回以降は会員、支援会員の方限定となっております。

私はこどものひろばを運営後、現在小学校の先生をしている家庭です。職業を言うと周りの人からはよく「先生って大変やろ～？」と言われますが、正直いうと…

めちゃくちゃ大変です！！毎日ドタバタです！
そんな日々のなかから「小学校」、先生として感じたことなどを綴っていけたらと思います。「こんな話が聞きたい」などあれば、教えてください。

今回は「年度はじめの準備」について。

まずは、年始め、約30日ほどに及ぶ職員会議が行われます。そして、校務分掌（学校運営のための業務）ごとに分かれて会議をし、会議にドリルなどの教材の確認・発注、時間割、当番表作成などを始め準備。また、新学期に公園など近隣の清掃活動、近所への挨拶回りのお仕事をさせていただくこと。
「学校（園）で使っとくれたら！」「授業の準備ってナニ？」などと思いはじめたら、毎日職人とドタバタさせられることもこの時期。無理してたどり着く頃、お疲れ先生の作品とともに次の記事に続いています。

また、子どもに出会う頃、どれからどうなることやら・・・・つづく（？）

だらしなくです！今回コッペパンのコラムを書かせて頂きます【S.スキャンプのひとり】と申します。どんな事を書こうか悩みながらではありますが、色んな事を書いていけたらなと思いますのでどうぞよろしくお願い致します！

私は小さい頃の夢であった「幼稚園の先生」となり働き出して、今年で７年目（中学一年学一年学一年学一年学一年学一年中）になりました。２７年の間に海外で働いていたのに本業は人を扱うことは苦ではないけど、なんでだろう…！？ そして、７年も続くなんて自分自身ビックリです（笑）

今回のテーマ、幼稚園の先生を目指すヒトから？思ったのひとつ目を書いていこうかなと思います。まぁ、ぶっちゃけ、幼稚園の先生を目指すきっかけっていうのは、小さい頃、お世話してくれた幼稚園の先生のことがとっても好きでそれからのヒトつ目なのです。幼稚園の先生にとって、よく、私はその先生の右腕に座ってお手伝いしたり、ボキーっとして話していてよく、私はその先生の右腕に座ってお手伝いしたり、ボキーっとして話していたいなぁ、いたのを今でも覚えています！（笑） そんな、楽園の楽園で楽しい先生になりたい！！と思ったのがきっかけでした。^_^）

次回は日々のクドモ達の様子を楽しいエピソードなどを書いていきます！

みなさん、はじめまして！今回コラムを担当させて頂くことになりました、元幼稚園サポートのCOCOの担当者です！

さて、自宅からSNSなどでもれに発信していくことが苦手な自分が何をコラムに書けて発信していくのか……今回は簡単な自己紹介でもあってそんなお話をしていこうかと思ってます。



## 5/22 第 24 年度通常総会　開催

事業
報告

5 月 22 日（日）に本願寺山科別院（西御坊）多目的会館にて、山科醍醐こどものひろば「第 24 年度通常総会」が開催されました。コロナ禍であるため、まだまだ参加された方は少なかったですが、久しぶりに皆さんで集まっての総会を開催することができました。

当日はすっきりとした晴れ間に、汗ばむくらいの天気でした。会場では、コロナ対策のために、一定の距離での席の配置と換気等を行い感染対策も行ないました。

議案報告の様子

議案では法人事業報告、決算報告、事業計画、予算がそれぞれ報告され、審議されました。今年度の計画の中には、秋頃にこどもフェスタを実施していきたいと考えていることや、コロナで出来ていない子どもの体験活動を、やりたい、出来ると思った時に、再開できるように計画がされていました。

また議案の審議だけでなく、前年度実施した「げんきスポット 0-3」「町たんけん」「学習サポートのびのび」「中学生学習会」「親子で楽しむ人形劇劇場」を担当からそれぞれ報告してもいらいました。担当者からの実施した内容や感想について聞くことで、参加者からは「報告文は読んでいるけれども、実際の担当者の声が聞けて良かった」などの感想が聞かれました。

各事業担当者からの活動報告と参加者からの感想

参加された方には議案終了後に、感想やコロナ禍で会えていない時から現在までの様子なども話していただきました。2 時間という短い時間中ではありますが、久しぶりに交流ができたと思います。総会終了後には、参加者が少なくて寂しいくもありますが、記念撮影をして終わりました。来年の総会の時には、コロナが終息して、また皆さんで集まることの出来るようになっていればと願うばかりです。

※第 23 年度事業報告、決算、第 24 年度事業計画、予算は、法人ホームページにアクセスいただき、団体詳細情報よりご覧いただけます。

総会の最後にはマスク有りとマスク無しで記念撮影

コッペパン180号より

活動
レポ

# 活動 ピックアップ レポート

（2022年6月～2022年8月）

## 7月～8月　楽習サポートのびのび 夏の思い出特集

例年より早く梅雨が明けて、7月、8月は“夏”の活動となりました。暑い日差しの中での活動、夏休みに入ってからの日常の活動、夏の思い出づくりのためのお泊りや余暇活動と行なってきました。そんな子どもたちとの夏のひとコマをお届けします。

Aさんが「こんないい天気にはプールしたいよね！」と言ったため、げんきスポット0-3からこども用プールを借りて山科事務所の前で水遊びをしました！準備から一緒にやって、最初は控えめにぴちゃぴちゃ足をつけていましたが、だんだん水の掛け合いが始まり、最後にはホースで子どももボランティアも全員ずぶ濡れ…！好きな夏ソングをかけて（定番のあの曲から新曲まで）水浴びして、ときどきアイスやいただいたきゅうりやお菓子を食べながら夏日和を過ごしました。

Bさんは、余暇活動として夏休みに入ったら、お泊り活動とセットで魚釣りに行く予定でした。しかし、お出かけを予定している日の天気予報は大雨。外での活動を諦めないといけなくなってしまいました。そのため、室内で楽しみことのできるイベントや場所がないかスタッフと一緒に探し、展示会に行くことに決定！展示の内容は海外のヒーローたちがたくさん出てくる映画です。等身大のヒーローや体験コーナーなどが盛りだくさんでした。子どももスタッフも一緒になってはしゃぎながら楽しい思い出となりました。

Cさんは5月ごろに活動で「野球観戦のチケットがついてるチラシをもらって行きたくてねだってみたけど行けないんだって…」と寂しそうに話してくれました。
「じゃあ、夏休みに入ったらひろばで前日お泊まりして次の日一緒に野球観戦行かこっか？」と提案したところ「やった！！！！」と喜んでくれ、その日から毎回の活動は野球の話でもちきりでした。
迎えた当日、お天気に恵まれウキウキで野球場へ向かいます。近づくに連れて「あ、ポスターある！」「なぁ、まだ着かへんの？」とそわそわ。ついには電車の中でファンらしき人に「そのカバンについているの〇〇のファンですか？」と聞いてしまうほど！「僕は誰のファンなの？」を返してくれ盛り上がりました。

球場につけばあまりの会場の大きさに驚きと、本物の選手をみれたことに大興奮！
試合中は一球ごとの解説してくれ「やばすぎ！」「天才！」「本物はえぐいな！！」と止まりません。
（私たちスタッフとサポーターも初心者でしたが、活動忘れて子どもと大盛り上がり！）
試合は結局負けてしまいましたが「あぁ楽しすぎた…」と名残惜しくも満足そうに帰りました。

コッペパン181号より



事業
報告

## 6/13、20　ボランティアセンターを訪問してきました。

コロナ過で、対面での活動が制限されていたこともあり、この2年は大きくボランティア募集を行なってはきませんでした。大学等でも対面の活動が再開されたため、コロナ前までは毎年行なっていた各大学のボランティアセンターの訪問させていただきました。

ボランティアセンターでは、久しぶりの顔合わせや最近のボランティア事情やボランティア受け入れへの要望などをたくさんお話しさせていただきました。また、ボランティア募集の内容説明に加えて、最近の学生の様子やボランティアに対する意識の変化、コロナ禍以降のボランティア活動の難しさなどもお話ししたくさん学ばせていただきました。

お気軽にボランティアを！ といってもこどものひろばの活動は、体験活動から子どもの貧困対策、子育て支援と多岐にわたり、一言でこういった活動ですと伝えることが難しいと感じています。特に、ボランティア募集をさせていただいている、子どもの貧困対策事業は、子どもひとりひとりの困っている背景がちがうため、活動時の過ごし方や対応の仕方が違うので、どうしても漠然とした伝え方になってしまいます。各大学を回らせていただき、時代の変化を感じながら柔軟に対応していきながら、新旧織り交ぜて活動していけたらと改めて思いました。

今回訪問させていただいた、京都産業大学、立命館大学（衣笠キャンパス）（びわこ・くさつキャンパス）、同志社大学、龍谷大学（深草キャンパス）の皆様、ありがとうございました。

「こんなボランティアありますか」「自分に何ができるだろう？」などボランティア相談から一緒にいたします。ぜひ興味ある方ご連絡ください！（vo.kodohiro@gmail.com または問い合わせフォームより）

## 6/17 近畿ろうきん「笑顔プラス」の寄付金贈呈式に参加しました。

2018 年度より近畿ろうきん様の社会貢献預金（笑顔プラス）という仕組みを通して、子ども支援、貧困対策に対してご寄付をいただいております。今年度も 214,604 円のご寄付をいただきました。

この2年間はコロナ禍となり、贈呈式は中止やオンラインでの実施となっておりましたが、今年度は少しコロナも落ち着いたこともあり、感染対策をして対面での実施となりました。そのため、ろうきん肥後橋ビルに出向き、寄付金の贈呈式に参加してきました。また寄付金の贈呈と共に 2021 年度に寄付金を活用して実施した子どもの貧困対策事業について、食材配布などのことを中心に事業報告をさせていただきました。参加された各団体も、このコロナ禍でも活動されており、それぞれ大変だったことや工夫して事業を実施していたことなどを報告されており、とてもいい刺激となりましました。

今年度もいただいた寄付金を活用して、子どもの貧困対策事業を実施しています。委託事業だけではカバーできないことも多い子どもの「困った」について、皆様からいただいた寄付金を使用させていただいております。引き続き、ご支援ご協力いただければと思います。

※社会貢献預金（笑顔プラス）は、「預金者の寄付負担（金利引下げ分の利息相当額）」と「ろうきんの拠出金」の合計額をＮＰＯ・市民団体に寄付を行う定期預金です。
詳しくは右の QR コードから近畿ろうきん様のページにアクセスしてご確認ください。

活動レポ

# 活動 ピックアップ レポート

（2022年9月～2022年11月）

## 10/30（日） 楽習サポートのびのび 「久々の再会」

先日、お引っ越しによって活動から離れてしまった子から「久しぶりにみんなに会いたい！」との連絡があり、久しぶりの活動を行いました。

元参加者の子も成人…「もうそんな年齢なん？」と信じられないサポーターのみんなと、あの頃のサポーターも学生ではなくみんな社会人になって府外にいたり、職業が変わっていたりと変化を見ることができた活動でした。

最後には、その子からの連絡で「楽しかったのもそやねんけど、幸せな時間だった！ありがとう！」と…

あの頃の楽しかった活動や大変だった活動は、こうやって何年後も大切な思い出として残り、その子と何度も繋がり直すきっかけになっていくことができる大切な思い出なのだと身に染みた活動でした。

（facebook 記事より）

## 11/28（月） あそびっこ＠西御坊

11/28（月）はあそびっこの活動で、
毎年恒例となっている西御坊さんでの活動でした。
当日はとてもいい天気の中で活動することができました。
今年もいちょうの葉っぱで真っ黄色のじゅうたんが素敵です。

黄色いじゅうたんをかけまわっています

参加した子どもたちは、

落ち葉をかけあったり

おもちゃを埋めてみたり

たくさんの葉っぱを集めたり

いろんな遊びを楽しみました！！
また来年もみんなでこれたらいいね♪

大人は葉っぱを重ねてブーケを作りました



## 11月 子どもの貧困対策事業 事業レポート完成

事業報告

2010年から事業を開始した子どもの貧困対策事業は、今年度で12年目を迎えます。コロナ禍となり、社会環境が大きく変化したこの2年で、子どもの貧困対策事業も日々の活動の仕方を変化させながら実施してきました。環境に合わせて変化させてきた部分もありますが、この12年間で子ども一人ひとりに寄り添うことは変わらずに大切にしてきたことです。そのことをこれまでの10年間の実績と、コロナ禍となりなかなか報告ができていなかったこの2年間のことと共に様々な視点からふりかえりました。

事業レポートの作成にあたり、活動の卒業生、サポーター、地域連携先、これまでの事業担当者など多くの方にご協力をいただくことで完成することができました。協力いただいた皆様、ありがとうございます。

事業レポートの内容は、

・子どもの貧困対策事業について
・これまでの実績とこの2年間の活動を数字でふりかえる
・子どもやサポーターからの声
・地域からの声（区役所、学校、カフェ）
・これまでの担当職員と活動開始からの10年をふりかえる
・これまでの活動で見えた課題について

と盛りだくさんな内容となっております。ぜひ、一度ご覧ください。

今後、この事業レポートはこどものひろばのHPで公開をする予定となっておりますが、冊子を複数ご希望の方は事務局までご連絡ください。
※冊数に限りがあるため、ご要望に応えられないことがあります。

子どもの貧困対策事業は、主にいただいた寄付で活動を実施しております。いただいた寄付は、活動で使用する食材、日用品、食材支援、公的な支援の枠組みでは実施しにくい子ども支援等に使用させていただきます。寄付先は6面のページをご覧ください。

## 2022年度も食材支援を継続的に実施しています！

コロナ禍となったこの 2 年間で、コロナの影響で困窮した家庭への食材支援を強化して実施してきました。2021年度は様々な団体や個人の方のご支援、ご協力のおかげでのべ422家庭に6,896食（主食のみ計算）を応援することができました。ありがとうございます。

そして、今年度も引き続き、困窮家庭等への食材、日用品の支援を実施しております。これまでの間にいただいた食材等の寄付の一部をご紹介します。

・お米（地域の方、おてらおやつクラブ）
・王将弁当（全国食支援活動協力、王将フードサービス）
・ぶどう（個人）
・お菓子（おてらおやつクラブ、個人）
・野菜や果物（会員）

など、多くのご寄付をいただきありがとうございます。

コロナの影響だけでなく、物価の高騰もあり、12 月以降も継続して、食材、日用品等の支援を実施していきますので、ご支援、ご協力をお願いいたします。

コッペパン182号より

活動レポ

# 活動 ピックアップ レポート
（2022年12月～2023年2月）

こどものひろばの各活動で 12 月から 2 月で行なわれた活動の一部を報告させていただきます。

## 12 月の活動

お正月飾り講座
ワラや南天などを使用して、正月飾りをつくりました。

げんきスポット O-3

あそびっこ

電車でお出かけ
たくさんの新幹線や電車をバイバイ👋してお見送りしました😀

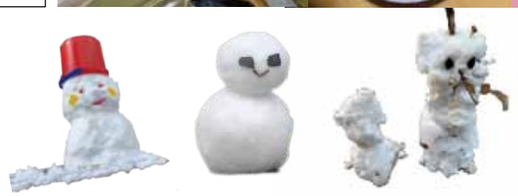
クリスマスファッションコレクション

クリスマス週間
楽習サポートのびのびに来ている子どもたちは、各活動で手作りのクリスマスケーキを作りました。中には、ポテトサラダをツリーにみたてたものも！

カード作りもしたよ！

楽習サポートのびのび

## 1 月の活動



雪がたくさん降ったので、たくさんの雪ダルマが登場しました。

げんきスポット O-3

新春フルートコンサート
20 人のみなさんと一緒に、クラシック音楽で有名なドヴォルザークのユーモレスクや、ディズニーの名曲たちの音楽を聴きました。

町たんけん

初笑いおやこ狂言会
午前、午後の部とそれぞれ参加がありました。
今年の演目は、午前の部が、蝸牛、ぶすの 2 作品、午後の部は、死神、仏師、福の神の 3 作品で、どれも面白く、笑い声の響く会場になりました。



## 2 月の活動

小さな鬼さん👹
たくさん出現！

「一緒にあそぼ」
節分あそびをしました☺
おに～のパンツはいいパンツ～♬を歌って踊って、その後はみんなで豆まき（鬼さんに向かってボール投げ😈）
大人も子どももワイワイ楽しく遊びました。

げんきスポット O-3

楽習サポートのびのび

北野天満宮に合格祈願にも行きました

「合格祈願と受験グッズづくり」
楽習サポートのびのびや中学生学習会では、中学 3 年生の受験生に向けて「受験グッズ」を作り、応援をしました。合格鉛筆を入れたり、みんながらのメッセージを書いたものを中学 3 年生の参加者に渡しました。

## 山科醍醐こどものひろば　24 年目を迎えて

1999 年 12 月 12 日に設立総会を開催して「山科醍醐こどものひろば」がスタートして 24 年目に突入しました。あっという間です。当時を写真で振り返ってもこの 23 年間で世の中はずいぶん変わったなと感じさせてくれます。

設立趣意書には、当時の前身団体の状況や社会状況を踏まえて、

子ども達を取り巻く文化環境、社会環境を充実させ、子ども達の豊かな「子ども時代」の実現に寄与することが目的に書かれていました。そのことにコロナ禍の今どれほど取り組めているのかあらためて考えさせられます。他にも設立趣意書のなかには、当時の子ども社会における「いじめ」「不登校」「学級崩壊」といったことへの問題意識や、おとなたちが子どもの権利条約の精神に照らしながらそれに基づいた活動や子どもの権利条約のなかでも第３１条にある「休息及び余暇についての児童の権利並びに児童がその年齢に適した遊び及びレクリエーションの活動を行い並びに文化的な生活及び芸術に自由に参加する権利」の実現を目指すことも書かれています。

しかしながらコロナ禍ということを差し引いても、山科醍醐こどものひろばの活動では、この 10 年間ではさらに、「貧困」「虐待」「DV」「ヤングケラー」といった言葉に表されるようなより深刻な相談が届くようになり、子どもの権利として、他のさまざまな権利をも保障していかなければいけない社会になってきています。このような社会状況のなかで、私たちはこれからどのように取り組むことがよいのだろうかと常に考えさせられます。

休息、余暇、遊び、文化的生活・芸術的活動への参加と、その基盤となる日常を安心して暮らしていけるようにと地域の活動として取り組むことの両輪で取り組んできましたが、コロナ禍では「余暇、遊び、文化的生活・芸術的活動への参加」の部分の多くが実施できませんでした。この 1 年間においてもごく一部の活動に限られての実施となりました。

24 年目を迎えましたが、次の一年では、なんとかコロナ禍で実施できなくなった「余暇、遊び、文化的生活・芸術的への参加」の部分を充実させていければと思っています。また関係各所や子ども・家庭から寄せられる多くの相談に応えながら、子どもの暮らしの基盤の下支えも引き続き取り組んでいきたいと思います。

この間も多くの会員のみなさま、役職員のみなさま、ボランティアスタッフや寄付者のみなさま、地域で連携してくださっている多くの関係機関のみなさま、そして地域で暮らすみなさまに支えられ活動することができました。ありがとうございました。まだまだ微力ではありますが、山科醍醐こどものひろばとしてできることを一つずつ取り組んでいきますので、今後とも応援のほど何卒よろしくお願いします。

理事長　村井 琢哉

コッペパン183号より

# Support

わたしたちの活動は、みなさまの応援・ご支援によって成り立っています。
いろいろなカタチの応援があります。ぜひ一緒に、地域の子どもたちの成長を見守っていきませんか？

## 一緒に活動をつくって応援

| | |
|---|---|
| ボランティア | ボランティアご希望の方には当団体の説明会を行います<br>■各活動部で、企画運営・子どもたちの活動をサポートするスタッフ<br>■事務局業務をサポートするスタッフ など |
| 会員 | 会費：年払い16,000円以上、または半年払い13,000円以上（＋初回のみ入会金500円）<br>■当団体へ直接持ち込み<br>■郵便振替　※口座は左下参照<br>■クレジット決済（VISA/Master/JCB/AMEX/DINERS）※ホームページから手続きできます<br>ページURL：https://congrant.com/project/kodohiro/7080 |
| 支援会員 | 会費：個人支援会員は年払い13,000円以上　団体支援会員は年払い15,000円以上<br>■当団体へ直接持ち込み<br>■郵便振替　※口座は左下参照<br>■クレジット決済（VISA/Master/JCB/AMEX/DINERS）※ホームページから手続きできます<br>ページURL：https://congrant.com/project/kodohiro/7080 |

## 物品寄付で応援

| | |
|---|---|
| 古本・CD・DVD | ■当団体へ直接持ち込み　※お近くの場合、取りに伺うこともできます<br>■ご自宅や職場からチャリボンへ送る（申込後、宅配業者が集荷に来ます。送料無料）<br>http://www.charibon.jp/partner/yamashita/ ※寄付先は山科醍醐こどものひろばを選択 |
| 食品・文具など | ■当団体へお持ち込み　※お近くの場合、取りに伺うこともできます |

## 資金寄付で応援

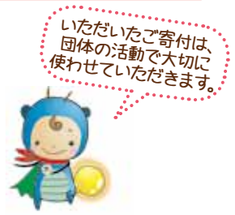
| | |
|---|---|
| 団体へ直接寄付<br>※1口3,000円から | ■当団体へ直接持ち込み<br>■郵便振替　※口座は左下参照<br>■銀行振込　※口座は左下参照 |
| 京都地域創造基金を通じて<br>※100円から<br>※税制優遇措置の対象<br>※当団体でも振込用紙をお渡しできます | ■郵便振替<br>口座記号番号：00930-4-312262<br>加入者名：京都地域創造基金寄付口座<br>通信欄：必ず寄付事業名「子どもの貧困対策事業」と記載<br>■銀行振込（当団体の事業への寄付専用口座）<br>京都信用金庫　本店（普）　口座番号：2027687<br>口座名義：公益財団法人京都地域創造基金<br>■クレジット決済（VISA/Master）<br>地域創造基金URL：http://www.plus-social.jp/project.cgi?pjid=11 |
| ふるさと納税<br>※次年度の寄付になります | ■きょうはぐふぁんど専用ページにアクセスしていただき、お申込いただくと、専用の納付書が届きます。※京都市在住の方も控除の対象です。<br>専用ページ：https://www.city.kyoto.lg.jp/hagukumi/page/0000315140.html |

**当団体の口座**

■郵便振替　口座記号番号：00990-1-47656
加入者名：特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば

■銀行振込　京都信用金庫　店番号：052　口座番号：0498523
口座名義：特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば

お問い合わせは電話・メールでお気軽に。ホームページも見てね！




# 支援のお願い



# Access

# アクセス

**NPO法人 山科醍醐こどものひろば**
**山科事務所**

〒607-8072
京都市山科区音羽伊勢宿町33-77
075-591-0877
平日13:00～17:00

**NPO法人 山科醍醐こどものひろば**
**げんきスポット0-3**

〒607-8074
京都市山科区音羽乙出町14
075-634-9242
火～土10:00～16:00

**NPO法人 山科醍醐こどものひろば**
**醍醐事務所**

〒601-1462
京都市伏見区小栗栖森本町20-22
075-202-9419
開館日は不定期

※掲載の各情報は、2023年10月31日現在のものです。

# Contact

**特定非営利活動法人**
**山科醍醐こどものひろば**

kodohiro@gmail.com
https://www.kodohiro.com/
https://blog.canpan.info/kodohiro/
https://www.facebook.com/kodohiro/

# お問合せ